

団体名	水戸英宏幼小中(学校法人緑丘学園)
所在地	茨城県水戸市見川町2582-1
団体の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、教育を行い、優秀でなおかつ健全な人材を育成すること
活動地域	茨城県全域
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	自然との調和を図り、企業、行政、家庭と一帯となった地域との連携による資源の有効活用とエネルギー消費の抑制、かつ相互交流による活性化と経済発展を両立させた、自然と共生した循環的で持続可能な共生的関係にある経済環境のモデルとしての地域
地域の現状・課題	農業生産額全国3位の農業県でありながら、地域の特産品のブランド化に成功していない。また、産業構造が第一次産業、特に農業に偏り、他の産業が育っていない。農作物の加工、流通、販売まで地域で一貫させる第六次産業などの新たな産業の創出により、少子化と若年層の人口流出を食い止め、基幹産業である農業等の後継者不足に対応することが喫緊の課題である。
地域が持つ資源	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然環境と農業と農漁業等の豊富な農産物・水産資源 常磐道、北関東自動車道や茨城空港、ひたちなか港など東京や海外へのアクセスの利便性と立地条件の良さ
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 当法人が事務局を担うホタルネットワークmitoの取組として、地域の絶滅したホタルの再生活動と、その生息地である校舎に隣接する里山の整備を通して育まれた環境意識の形成と自然と調和した豊かな教育環境の実現 SDGs教育とその実践により、環境意識の高い次世代人材の育成と、自然との調和を図り環境に配慮することによる、地域と連携した循環的・共生的関係の構築
地域循環共生圏を 実践することで想定 される効果	<p>(環境)</p> <p>温暖化対策、廃棄物対策、環境保全対策の強化により、自然と調和し環境に配慮した安心・安全な環境の実現</p> <p>(経済)</p> <p>地域循環共生圏の実践により、相互交流による経済の活性化と資源の効率化により、持続可能で互恵的關係の経済の構築</p> <p>(社会)</p> <p>地域循環共生圏の実現により、低炭素、低エネルギー、自立分散、環境配慮型の自然と調和した社会の実現</p>



水戸英宏小中学校



「英宏の泉」



森林整備の活動の様子



「茨城セブンの森」の活動